

小さな要求の結末・集積から

——全学学生協議会前進のために

芹澤 壽良

全学学生協議会が早稲田大学における学生自治組織の統一的協議機関として成立してから満一年を経た。確かに、一九五三年は早大の学生運動において、数々の欠陥を伴いながらも運動の量はもとより、運動の内容も非常に質的なふかまりを示した一年であり、全学協はこの年、極めて不十分であつたが指導性を発揮することができた。このことは率直に評価してもよいのではないかと思う。

しかし、全学協は現在、未だ全学生の指導者たる役割を果し得ないような弱体化した状態にある。このことも正直に認める必要がある。運動の過程で適時に「誤謬を公然と認め、その原

因をきわめ、それをひきおこした状態を分析し誤謬を訂正する手段を細心に審議すること」を真剣に実行しなかつたからであると思う。運動の総結が常に形式的な自己批判に終つていたのである。

私はここで議長としての一年間の経験から全学協の最も基本的な欠陥を指摘し、若干の意見を述べてみたいと思う。

第一に運動方針の決定の最も重要な要素である情勢の検討においては主観的な希望的観測を排除することが何よりも大切である。(一) 運動の対象をめぐる諸條件、(二) 運動を指導する自治組織の主体的條件、(三) 運動の中心をなす学生の條件、この三点が総合的に把握、分析されてのみ、はじめて正しい運動方針を決定することが出来る。このうちの一つの点の検討をも欠いて決定された方針は決して運動の成功を保障する方針とはいえないであらう。常に全学協の運動方針の討議に際してはこの様な検討が失われ勝ちになる。昨年十二月一日の自治庁通達反対のゼネスト決行を主張した一部の意見はこの総合的検討が欠けていた典型であつた。

第一のことと関連するが第二に運動の進展過程をさきに指摘した三点から常に検討し、新しい條件に対処出来るようにしなければならない。経験主義は克服される必要がある。全学協の活動には今まで、経験主義的傾向が強く、新しい條件にも拘らず古い方針を固持し適時対処出来ない場合が多かつた。約三カ月にわたつて展開された自治庁通達反対運動の過程においても常にこのことが見られたのである。

以上の様な欠陥を克服して行くためには(イ)全学協、各学生委員会、クラス相互の正確な

【論巧】 小さな要求の結束・集積から

情勢交換活動を行わなければならない。事態にそくしていない「景気の良い」報告は主観的な希望的観測が生れる最大の原因である。例えば「決議した」という報告をする場合にも、その事実のみでなく、それがどの様な討論過程を経て行われたのか、その「決議」の質をも具体的に報告する必要がある。私達がその様な報告を受けた場合学生の具体的問題をめぐる意識をはつきりと知ることができ、方針決定に建設的な役割を果すのである。(ロ) 全学協、各学生委員会、クラス相互の点検活動を活発に行う必要がある。

提出した問題がどう採り上げられ要請した方針がどう実行されたかを相互に点検すべきである。とくに、全学協の常任委員は部室にとじこもることなく、各学生委員会クラス会に出席し、その討議の中から、学生自治運動によつて重要性を持つどんな小さな問題をも見出す努力をしなければならぬであろう。(ハ) 各委員は条件の変化を適確に把握し分析し得る理論的な実践的な能力を養い高めて行くことが必要だと思う。私はここで学生運動の指導理論を諸外国の学生運動の歴史から学ぶことも必要であるが、戦後日本の学生運動とくに早大自治会の歴史から具体的に学ぶ必要があることも強調したい。戦後八年たつた今日、日本の政治経済の面では共同研究によつてその歴史と本質が究明されはじめたとき、戦後史の過程で偉大な役割を果している学生運動の歴史は是非編さんさるべきである。(ニ) 方針の討議には疑問の残らない徹底的な討論を行わなければならない。今迄「異議なし」で無討論で採択され、実行に移す段階で疑義が出たり、自信がなくて実行に移されない場合が案外多いからである。

第三に、教育宣伝活動の重要性を再認識しこれを全学協の日常活動の大半としなければなら

ない。教宣活動を徹底すればするほど、運動の可能性は強い。これは最近の大衆運動の貴重な教訓である。全学協の教宣活動は殆ど系統的に行われず、しかも、行われた場合は誇張がしばしばあつた。真実の宣伝のみが学生を行動に立たせる大きな力になる。

第四に、全学協は統一協議機関という組織形態では早大の学生自治運動に対して効果的な組織上の保障を与えることは出来ないという事を考え、すべての学生委員会が納得ゆく有効な組織形態をあみ出すべきである。

指摘すべき点は未だ数多くあるが、以上の様な点が真剣に考えられ、実行に移されるならば、全学生と固く結びつき、運動方針に於ても画一的な方針ではなく、個々の具体的条件に応じ得る、即ちすべての学生に支持される方針を出すことが出来るようになるであろう。

最後に、学生自治運動の指導的立場に立つものが、学生の自治意識の低調を非難するだけでは学生との結びつきは強くならない。どんな小さな要求をもとりあげ、小さな行動によつて小さな結束の力を積み上げ、学生に自信をもたせることが大切だということを強調したい。このことをも合わせて考えることによつて、学生々活を守る運動、学生の自治権を全面的に回復する運動、更に再軍備と徴兵に反対し、平和憲法を守る運動を広汎にそして成功的に行うことができるであろう。

(前全学学生協議会議長)

【論巧】 小さな要求の結束・集積から

早稲田 一九五〇年
史料と証言・別冊・資料篇（非売品）

発行・二〇〇〇年六月二十五日
早稲田・一九五〇年・記録の会
振替 00140-6-364461
ホームページ

<http://www.m-net.ne.jp/~t-abe/waseda.html>

代表・橋本 進

編集部

吉田 嘉清	大金 久展
岩丸太一郎	芹澤 壽良
安倍 徹郎	長瀬 隆
藤川 亨	猿渡 新作
坪松 裕	大塚 茂樹
清水 弘道	柴田 詔三
小野 安平	坂本 尚

制作・(株) 新制作社

池上 明彦

高野 正子

東京都港区赤坂七一五一一七

〒 一〇七—〇〇五二

TEL 〇三一三五八四—〇四一六

FAX 〇三一三五八四—〇四八五

早稲田一九五〇年・史料と証言 別冊・資料篇
<http://www13.plala.or.jp/abe/shiryohen.txt>